

龍河洞と他鍾乳洞の比較研究

～龍河洞の活性化のために～

1160432 清水 優奈

高知工科大学マネジメント学部

1. 概要

本研究では龍河洞の経営についての現状、また、再び活性化するための課題を明らかにする。

龍河洞とは、高知県香美市に存在している、国から認められた日本三大鍾乳洞の一つであり、昔は多くの観光客数に恵まれていた鍾乳洞だ。しかしここ数十年、龍河洞への入洞者数が大きく減少しており、今後の龍河洞の経済として、不安定な状態が続いている。その時、疑問が生まれた。その不安定な状況は、龍河洞だけなのか、逆に他の鍾乳洞は栄えているのではないか。それとも、他の鍾乳洞も龍河洞と同じように廃れていっているのか。この考えから、龍河洞の活性化のためには他の鍾乳洞との比較が必要と考え、調べていく中で、日本観光鍾乳洞協会という龍河洞を9つの鍾乳洞があることを知り、それらを比較の対象と置き、比較研究を開始した。

比較した結果、龍河洞と他鍾乳洞は、入洞者数は違えど、グラフはほぼ同じ動きをしており、どの鍾乳洞もブームが去った後は不安定な状態にあるということが判明した。その結果から、国民の鍾乳洞自体への興味が失われているのではないかと考え、龍河洞をメインの鍾乳洞として、龍河洞への意識調査を行った。のちに、アンケートの結果をもとに香美市役所、龍河洞保存会へのヒアリングを行い、今後の龍河洞が再び活性化をするための課題を明確にした。

2. 背景

高知工科大学の近くには、龍河洞という鍾乳洞がある。龍河洞は、昔は多くの観光客に恵まれており、周辺の県からは遠足や修学旅行地としての利用される場所でもあった。香美市などの地域だけではなく、高知県の経済に大きく貢献していた観光名所であった龍河洞であるが、今では客足が遠のき、経済的に不安定な状態で非常によくはない傾向にある。

そもそも龍河洞とは、高知県の東部の香美市に存在している日本三大鍾乳洞のひとつである。高知工科大学の香美キャンパスから、バスで20分程度の場所にある。1934年に日本政府によって、国の天然記念物、また国の史跡に指定されている鍾乳洞だ。また、それだけではなく、2007年には日本の地質100選に選ばれるほどの歴史的な洞窟であることがわかっている。

日本の古き良き鍾乳洞であり、今も変わらず洞窟内に神秘的な魅力があるはずの龍河洞には昔は多くの観光客が足を運んでいた場所であるのに、なぜ、今になってこんなにも廃れてしまっているのか。地域としても、龍河洞としても、これ以上の財政困難を避けるべきではないかと考える。せつかくの鍾乳洞が経営困難になり閉鎖などの問題に陥らないためにも、再び活性化するための方法を考える必要がある。

そのためには、他の鍾乳洞も龍河洞と同じように客足が遠のいているのか、また、逆に栄え続けているのかどうか。もし、栄えている場合は、龍河洞との違いや劣っている点があるかどうかを見つめてみる必要があると考えられる。また人々の龍河洞への意識はどうなのか、そこにも着目してみたいと考えた。

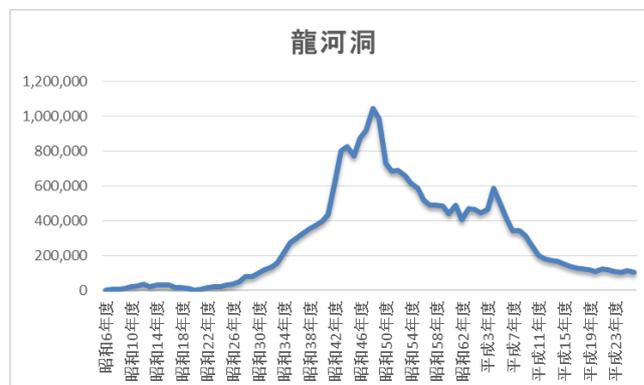


図1：龍河洞の人口推移

3. 目的

本研究は、高知県香美市にある龍河洞を中心として調査する。また、龍河洞の比較対象として、龍河洞も加盟している「日本鍾乳洞協会」に加盟している龍河洞を含む9つの鍾乳洞と、来洞者数など様々な面からデータを収集し、比較をすることで、龍河洞が再び活性化し経済面での発展をするためにできる方法を探す。そのためにはまず龍河洞の詳しい現状を知る必要があるため、今の龍河洞の経済状態や龍河洞に対する人々の意識について把握することを第一の目的とする。

4. 研究方法

本研究は、「日本観光鍾乳洞協会」に加盟している「龍河洞、昇竜洞、球泉洞、七ツ釜鍾乳洞、秋芳洞、飛騨大鍾乳洞、日原鍾乳洞、あぶくま洞、龍泉洞」の9つの鍾乳洞を比較対象として、調べていく。

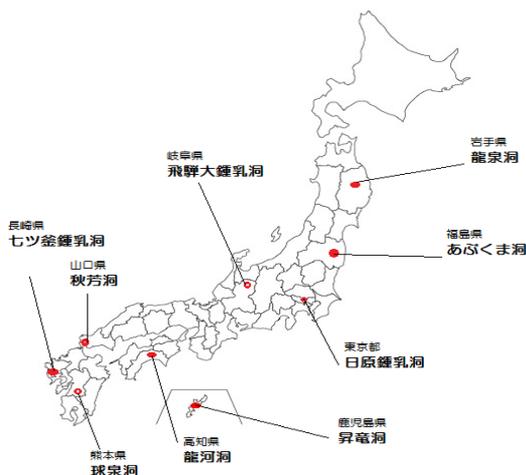


図2：日本観光鍾乳洞協会に加盟している鍾乳洞の位置

はじめに、ホームページの情報を頼りに、住所や、鍾乳洞の長さ(中に入ることができる距離)、ブランドやアクセス方法、また、管理者などを調査する。その際、ホームページだけでは得ることができない、年間に訪れる来洞者数などについては、実際に鍾乳洞の管理元や県庁に電話とメールで連絡を取りデータを得た。次に、実際の問題として、今の学生たちの龍河洞に関する意欲関心の関係性はあるのかどうかを考え、高知工科大学の学生182名に龍河洞に

対する意識調査を、アンケートを通じて行い集計する。また、高知工科大学の学生だけの意見ではなく、一般の方から意見を得るために、実際に現場へ足を運び、旅行や観光のために来ている龍河洞入洞者に意識調査(満足しているかどうかも含め)を行った。学外でアンケートを行う場合のみ、報酬として10円相当の駄菓子を用意した。

5. 結果

5.1 鍾乳洞詳細

今回の調査対象の鍾乳洞9つの詳細をこちらに記す。

- ①どこの県か ②入洞料金 ③追加料金(コース) ④長さ
- ⑤アクセス方法、時間 ⑥ブランド

以下、調査対象の鍾乳洞の詳細である。

秋芳洞：①山口県 ②1200円 ③300円(冒険コース) ④8700m(公開は1km) ⑤宇部空港から車で1時間、またはJR新山口からバスで45分 ⑥日本一大きい鍾乳洞、特別天然記念物。

あぶくま洞：①福島県 ②1200円 ③200円(探検コース) ④3300m(一般公開は600m、探検コース利用で720m) ⑤福島空港からリムジンバスで群山駅まで約40分→神俣駅からタクシーで5分 ⑥日本の鍾乳洞で初めて舞台演出用の調光システムが導入された。

球泉洞：①熊本県 ②1050円 ③630円(ファミリー探検コース) ④4800m(公開は800m) ⑤熊本空港から人吉まで車で1時間20分。JR肥薩線の人吉駅から25分 ⑥九州最大の鍾乳洞

昇竜洞：①鹿児島県 ②1100円 ③他コースなし ④3500m(公開は600m) ⑤鹿児島空港からJACで沖永良部空港まで1時間40分、沖永良部空港から車で35分 ⑥県の天然記念物

七ツ釜鍾乳洞：①長崎県 ②510円 ③(地底探検ツアー)

1500 円 ④1600m 以上（公開は 320m、地底探検のみ 800m） ⑤長崎空港から車で 1 時間 20 分。駅から行く場合はさいかい交通「七ツ釜鍾乳洞入り口」下車徒歩 10 分 ⑥国の指定天然記念物

日原鍾乳洞：①東京都 ②700 円 ③他コースなし ④1270m（公開は 500m） ⑤奥多摩から日原までバスで 35 分 ⑥関東随一の規模で、東京都指定天然記念物

飛騨大鍾乳洞：①岐阜県 ②1100 円 ③他コースなし ④800m ⑤高山駅からバスで 30 分 ⑥日本の中で最も標高が高い場所にある。

龍河洞：①高知県 ②1100 円 ③1000 円（冒険コース） ④4km（公開は 1km） ⑤高知空港から車で 15 分。駅から来る場合、高知駅から土佐山田駅まで JR で 30 分、土佐山田駅から土電で 20 分。 ⑥日本三大鍾乳洞の 1 つ

龍泉洞：①岩手県 ②1000 円 ③他コースなし ④3600m（公開は 700m） ⑤花巻空港から車で 140 分。駅から来る場合、盛岡から JR バスで 110 分。 ⑥日本三大鍾乳洞の 1 つ、国の天然記念物。地底湖あり。

5. 2 高知県への観光客数、入洞者数の推移

一つの参考資料として、高知県へ観光としてきている、県外観光客数の推移について調査した。昭和 44 年度から高知県への観光客は上昇傾向にあり、一度昭和 49 年度に大きく減少しているものの、その後持ち直しては、何度か下降しつつも平成 14 年度まではほぼ右肩上がりのグラフになっている。この 1 度大きく減少している昭和 49 年度の観光客の減少の理由に関しては、オイルショックが大きな原因ではないかと考えられる。

しかし、平成 15 年度に入り推計方法の見直しをしたのちに、観光客数は大きく減少している。しかしのちに、平成 21 年度から 22 年度の間でまた大きく観光客数が増加していることがわかる。この間に観光客数が増えた理由として、福山雅治主演の NHK で放送された大河ドラマ、「龍馬伝」が多くの反響をよんだことから、福山雅治が役を務

めた、坂本龍馬のゆかりの地の高知県に興味を持った人が多くいたことが理由になっているのではないかと考えられる。

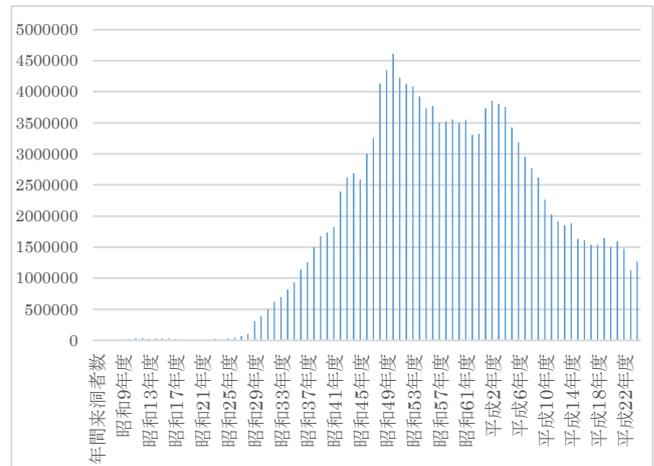


図3：9つの鍾乳洞を足し合わせたグラフ

この図はそれぞれの鍾乳洞の管理元から得た、年間の入洞者数推移データをすべて足し合わせてつくりあげたグラフである。

グラフを見てみると、昭和 49 年にピークを迎えており、ピークののち、昭和 52 年に大きく入洞者は減少している。また、平成 2 年に持ち直しているものの、平成 5 年にまた大きくグラフが減少していることから、なにかしら理由があったように考えられる。

この山なりのグラフの傾向を見る限り、入洞者数が少なくなっているのは龍河洞だけではなく、鍾乳洞全体の問題であることがわかる。交通機関が昔よりも発達してはいるが、なぜ減少傾向にあるのか。それを調査するために、アンケートを行った。

5. 3 アンケートの結果

高知県の龍河洞は、鍾乳洞全体が下がっている中で、その中でも大きく減少しており、なおかつあまり入洞者数の立て直しができていないことがデータから判明した。その理由の中に、意識的なものはあるのかどうかということを知るために、学生と、一般の龍河洞へ実際に来ている人にアンケートを実施した。

高知工科大学学生

性別：男 113 人、女 66 人、性別不明 2 人。

学部/学群：マネジメント学部 178 人、システム工学群 1 人、環境理工学群 2 人

学年：1 年 120 人、2 年 43 人、3 年 12 人、4 年 6 人

出身地：高知県民 78 人、県外 102 人、不明 1 人

計 182 人

学生へのアンケートから結論を説明する。まず、Q1 龍河洞を以前から知っていたか、に関しての結果である。

龍河洞を以前から知っていたか

Q1	1	2	3	4	合計
回答数	35	93	49	5	182
パーセント	19.2	51.1	26.9	2.7	100

1…知らない
2…名前ぐらいなら聞いたことがある
3…説明程度の内容は知っている
4…説明以上のことを知っている

	いいえ	どちらとも	はい	合計
回答数	21	32	63	116
パーセント	18.1	27.6	54.3	100

今日以前に龍河洞に来て中に入ったことがあるかどうか

Q2	1	2	3	4	合計
回答数	118	41	17	6	182
パーセント	64.8	22.5	9.3	3.3	100

1…ない
2…過去に 1 回だけある
3…過去に 2~3 回ある
4…過去に 4 回以上ある

この結果から高知工科大学の学生は龍河洞の名前や、龍河洞に対する説明を知る機会はある、まったく知らないという人は 19.2%と少なく、80%は知っているという結果が出た。しかし、実際に中に入ったことがあるのか、という質問に関しては、入ったことがない人が 64.8%と、過半数以上を占めていた。

この結果より、過半数以上を占めた、龍河洞へ行ったことのない学生の理由を把握する質問をした。ここから Q3 である。

存在を知らなかったから

	いいえ	どちらとも	はい	合計
回答数	72	8	36	116
パーセント	62.1	6.9	31.0	100

まず、「存在を知らなかった」という質問に対しては、「いいえ」を選択した人が 72 人。62%を占めていた。しかし、「はい」を選んだ人が 30 パーセントを占めており、近くにあるにも関わらず、知られていないという龍河洞の広報不足、また学生が興味を持っていないと考えられる結果となった。

遠いから

	いいえ	どちらとも	はい	合計
回答数	21	32	63	116
パーセント	18.1	27.6	54.3	100

次に、「遠い」という理由に対しては、「はい」という意見が 54.3%と半数を占める結果となった。実際行っただけでも、学校や土佐山田駅からなど、バス以外での交通手段がない人にとっては遠く感じるのかもしれないと考える。

交通の便が悪いから

	いいえ	どちらとも	はい	合計
回答数	28	29	58	115
パーセント	24.3	25.2	50.4	100

3つ目の「交通の便が悪い」という理由には、「いいえ」を選んだ人は24.3%。「はい」を選んだ人は50.4%と、半数がそうだと断言した。しかし、「どちらとも言えない」の数を見ると、微妙な結果となった。先ほども書いた龍河洞行のバスが出ていることが、交通の面で悪すぎるという結果を出すことにならなかった理由になっていると考えられる。

入洞料金が高いから

	いいえ	どちらとも	はい	合計
回答数	38	44	33	84
パーセント	33.0	38.3	28.7	100

4つ目の「入洞料が高い」という理由に関しては、「どちらとも言えない」に、もっとも票が集まった。また、「いいえ」と「はい」にあまり大きな差はなかった。ここで「どちらとも言えない」を選んだ人は、実際の龍河洞への入洞料金を把握していないのではないかとということが理由に挙げられる。しかし、それを除けば、料金以上に行きたいと思わない理由があるのではないとも考えることができる。

そもそも興味がないから

	いいえ	どちらとも	はい	合計
回答数	22	24	69	115
パーセント	19.1	20.9	60.0	100

最後の理由として、「そもそも興味がない」という理由が、今までで最も「はい」という意見を集めた。過半数以上を占めていることから、何よりも行ったことのない学生は鍾乳洞自体に「興味をもっていない」ということがわかる残念な結果となった。

次のQ4の質問は、龍河洞のイメージを知るために行ったもので、「風景が美しい」という点には5点中3点（ここでは平均点を示す）、「近い」には2点、「交通の便がいい」には1.8点、「周囲が栄えている」は、1.7点、そして「楽しそう」には、2.6点と、微妙な結果を見ることとなった。龍河洞へ行ったことのない学生の多くは、ネガ

ティブなイメージを持っている人が多くみられるようである。また、交通の便がいいとは思えない人が多くいることから、アクセス方法の一つとして、龍河洞行のバスが出ていることをあまり知られていないのではないかと考えられる。

続いてQ5の質問で「この夏休み中に龍河洞へ行きたいと思うかどうか」については、(アンケート実施は7月初旬)、5点中1.8点と低く、Q6の「今後行きたいと思うか」、という質問に対しては2.6点と夏休み中よりは行こうという意思が少しあることが分かった。しかし半分の3点を超えていないことから、龍河洞への関心がないことや、Q4の質問で分かった現地へのネガティブな考え方が多いことから、龍河洞のイメージアップをしない限りは実際に行ったことがない学生が足を運ぶことは難しいのではないかと考えられる。

Q7では実際に入洞料金として支払うことができる金額を尋ねた。この際実際に必要な金額は知らせていない。その結果、実際に必要な入洞料金は1100円だが、平均、485円という非常に安い入洞料金しか払うことができないということが分かった。しかし、Q3で行ったアンケートの結果から、「入洞料金が高い」から「行かない」という人は、115人中33人であったから、この結果と見比べると、知らないからこそこの、非常に安い金額になったのではないとも考えることができる。しかしながら、支払おうと思う金額という質問欄で「0円」と答えている人もいたことから、よほどの無関心を感じられるため、すぐにでもイメージアップを図るべきである。

ここからは学生の中でも行ったことが1度でもあるという選択をした人たちのアンケート結果である。まず、Q8の龍河洞に行った理由の結果はこちらである。

龍河洞に行った理由を挙げよ（複数選択可能）

	1	2	3	4	5	6	合計
回答数	23	6	3	3	43	1	79
パーセント	29.1	7.6	3.8	3.8	54.4	1.3	100

1…学校行事で行った
2…地域の行事で行った
3…プライベートで1人で行った
4…プライベートで友人で行った
5…プライベートで家族・親戚で行った
6…プライベートで恋人で行った

最も多かったのは「プライベートで家族や親戚で行った」という回答で、54.4%と全体の半分を占めた。親に連れられて、という人が多くいることで、高知に来た際の観光目的としてきた人が大多数を占めたと考えられる。想定通りの結果である。

次に龍河洞へ行った際の満足度について説明する。5段階に分け点数で結果を見た。「龍河洞の洞窟内部について」は、5段階中4.25点（平均点）、「周辺施設について」は、2.7点、「交通手段について」は、2.6点、「入洞料について」は、2.8点と、「周辺施設、交通手段、入洞料」については半分の3点を超えず、残念な結果となったが、「洞窟の内部」については満足度が非常に高い結果を得ることができた。入洞料が2.8点と、周辺施設への満足度が微妙な中でもほぼ、3点だったことは、龍河洞の内部の満足度の高さが影響していると考えられる。逆に、3点に至らなかったのは周辺施設の満足度が低いことが理由だろう。

続いてQ10、Q11では行ったことがない学生と同じ質問の、夏休み中に行きたいと思うかどうか、今後また、行きたいと思うかどうか、を尋ねた。結果、Q10は、5点中2.7点、Q11は3点、という結果が得られた。どちらも行ったことがない学生よりも行ったことのある学生のほうが高い点数を出しており、一度満足しているからこそ、また行ってみたいという意見だと思う。

龍河洞の冒険コースに行ったことはあるか

	1	2	合計
回答数	9	54	63
パーセント	14.3	85.7	100

1…ある

2…ない

次のQ12で「龍河洞の冒険コースに行ったことがあるか」というアンケート結果は、上の表の結果が得られた。「ない」という結果が大半を占め、「ある」という人は少数であった。冒険コースは予約が必要になるため、偶然、観光で立ち寄った人たちが参加したりすることができないからこそ、この結果になっているのではないかと考えている。

Q13では、Q7と同じことを質問している。行ったことのある学生の支払限界入洞料金については、1029円だった。実際1100円であったが、1029円という結果は実際の料金からみて妥当な結果であると思う。少し低いのは、親や親戚で行った人や学校行事で行ったという人が多いということから、自身で料金を支払いしていない人が多いこそこの結果ではないかと考える。しかし、それでもほぼ1100円に近い値段であるから、学生で行ったことがある人からすれば、1100円は高くもなく安くもない、ちょうどいい金額であるのだろう。

最後の質問Q14は、実際に香美市役所の観光支援課から質問したい内容を聞き行ったことのある、ないに関わらず尋ねた。結果はこちら

今後龍河洞を活性化させるために何に力をいれるべきか

	1	2	3	4	5	合計
回答数	27	70	37	36	29	199
パーセント	14	35	19	18	15	100

1…外国人観光客を誘致する
2…地理や歴史等、学習の場として利用する
3…周辺での農業体験等と組み合わせた観光プランに力を入れる
4…新しい見学メニューを提案する
5…その他

最も多かったのは2の「学習の場として利用する」というもので、学生目線から見た龍河洞は、歴史を感じる学習をする場所だということが多く感じられる場所だと

考える人が多いのだと分かった。

その他、を選んだ人たちの学生意見は、アンケートを取った学生にマネジメント学部が多いというのもあってなのか、「PRが足りない、広報に力を入れるべき」という意見、また、「入洞料金やバス料金の値下げ」など、金銭面での問題の意見が挙げられていた。

一般人

性別：男 81 人、女 113 人、不明 4 人

年代：10代 11 人、20代 46 人、30代 56 人、40代 40 人、50代 17 人、60代 11 人、70代以上 0 人、年齢不詳 17 人（平均年齢 37 歳）

出身地：高知県民 46 人、県外 147 人、不明 5 人

計 198 人

続いて、一般人の結果を話していく。最初の質問 2 つは学生と一緒にの質問である。

龍河洞を以前から知っていたか

	1	2	3	4	合計
回答数	67	88	39	4	198
パーセント	33.8	44.4	19.7	2.0	100

1…知らない
2…名前ぐらいなら聞いたことがある
3…説明程度の内容は知っている
4…説明以上のことを知っている

今日以前に、龍河洞に来て中に入ったことがあるか

	1	2	3	4	合計
回答数	125	38	28	7	198
パーセント	63.1	19.1	14.1	3.5	100

1…ない
2…過去に 1 回だけある
3…過去に 2~3 回ある
4…過去に 4 回以上ある

Q1の結果から龍河洞へ来る人は、名前だけ知っていて

くるか、名前も知らないが来てみるという人の 2 つに大きくわかるということが分かった。実際アンケートを書いている人に話しかけて聞いてみると、「何も知らなかったが、勧められて」などと自身の意思で来ていない人も何人か居た。また、Q2の以前に来たことがあるかどうかという質問に関しては、ほとんどがない人だったが、学生と違い、過去に来たことがある人が 2.3.4 を合計すると、36.7%と、全体の 3 割を占めていることが分かり、リピーターがいるということが判明した。

Q3では龍河洞に来た理由を尋ねた。

龍河洞に来た理由を挙げよ（複数選択可能）

	1	2	3	4	5	6	合計
回答数	8	4	2	63	121	25	223
パーセント	3.6	1.8	0.9	28.3	54.3	11.2	100

1…学校行事で行った
2…地域の行事で行った
3…プライベートで 1 人で行った
4…プライベートで友人で行った
5…プライベートで家族・親戚で行った
6…プライベートで恋人で行った

最も多かったのは、学生の時と同じで「家族・親戚と一緒にいった」という選択をした人たちで、全体の 54.3%と、半数を占めていた。アンケートを実施した日が夏休み中であつたため、家族で祖父母の家へ帰省しているから来たという家族も多くいた。また、次に多かったのが、およそ 30%を占めていた、プライベートで友人と来たという選択である。また、比較をしてみると、学生の時は少なかった「恋人と行った」という選択をしている人が 25 人いることから、デートスポット、遊びのスポットとしてもいいと考える人たちが学生よりも多いと考えられる。

	1	2	3	4	5	合計
回答数	51	90	31	44	40	256
パーセント	19.9	35.2	12.1	17.2	15.6	100

Q4 では満足度についてアンケートをとった。龍河洞の「洞窟内部」については、5 点中 4.47 点、「周辺施設」については、2.9 点、「交通手段」については 1.6 点、そして「入洞料金」については 1.9 点という内部以外の満足度が低い結果となった。どのグラフも満足度は学生より、一般のほうが高い結果が出ている。行ったことがある学生同様、「洞窟の内部」についての満足度は非常に高く、最も満足した、という意見に入れている人が全体の 59.2%を占めていた。「周辺施設」については半分ほどで、非常に満足したわけではないが、悪かったわけでもないという微妙な結果だった。実際に聞いた意見の中では、「お手洗いを新しくしてほしい」など、古い施設に不満を募らせている観光客が多く見られた。「交通手段」については、アンケートを取っている最中に少し話をしてみたのだが、「車で来るしか方法がなくて困った」という意見を聞き、バスが出ていることを知らない観光客がいることが判明した。HP などにアクセス方法を書いてはいるものの、その他の方法で、もっと宣伝することが必要だと考えられた。入洞料金は全体的に微妙な結果となった。選択の中で最も多かったのは、満足と不満足の間で 3 であり、高くもなく、安くもなく。可もなく不可もなく。という人が多くいた。

Q5 では、「今年中にまた来たいと思うかどうか」Q6 では「今後また来たいと思うかどうか」ということを聞いてみた。結果は、「今年中」は 5 点中 2.4 点、「今後」は 3.3 点と、学生たちよりも高い結果を得ることができた。洞窟の内部に感動した人たちが多かったことも理由の一つだったが、ほかにあった理由としては、帰省をしたときに来たという人も多かったため、「孫が楽しんでいて、また来たいと思った」という声もあがっていた。今後來たいと思うか、という意見が高い点数を示していることから、リピーターも意外といることが分かった。

龍河洞の冒険コースに行ったことはあるか

	1	2	合計
回答数	3	193	196
パーセント	1.5	98.5	100

1…ある
2…ない

Q7 の龍河洞の冒険コースに行ったことがあるかについての質問には、ほとんどの人が行ったことがない、ということだった。学生とあまり変わりがなかった。現地でアンケートを取ったものの、実際冒険コースをしに来ている人たちから、アンケートを取ることができなかったのだが、私自身が目にした冒険コース参加者は、外国の人が多く見られた。また、子連れの観光客が、「子供の年齢制限に引っかかってしまい、興味があったのに冒険コースをすることができなかった」といっていた。冒険コースに興味を持つのは、日本人ではお年寄りや中年層よりも、子供や、若い人たちが多くみられるようだ。

学生と大きく差がついたのは、Q8 の龍河洞の入洞料金の限界支払金額であった。限界支払金額は、平均 1495 円と実際支払うべき金額より 300 円以上多く、高めに設定した人が多く見られた。実際の値段を知りつつ、つけた料金のため、料金以上に満足したという意見の人が多くみられた。中でも一番高い金額を設定した人は、5000 円と実際の金額よりも非常に高い金額を提示していた。

Q9 では学生の時と同じように香美市役所の観光支援課からいただいた質問を提示。

今後龍河洞を活性化させるためにどうすればいいか

1…外国人観光客を誘致する
2…地理や歴史等、学習の場として利用する
3…周辺での農業体験と組み合わせた観光プランに力を入れるべき
4…新しい見学メニューを提案
5…その他

ここでも、学生と同じように 2 の「学習の場として利用する」という選択肢が多く票を集めた。違った点は、学生の時にはあまり票を集めなかった 1 の「外国人観光客を誘

致する」が2番目に票を集めており、龍河洞に多くの外国人の観光客が来ていたことを見ていたからこそ外国人の観光客のほうが日本人の学生や若い人より興味を持つのではないかと考えた人が多くいるのではないかと考えられた。また、その他を選んだ人たちの意見で最も多く見られたのが、「広報、PRの強化」という意見だった。高知市内の観光とリンクさせ知ってもらう方法や、テレビや動画サイトやSNSを利用したネットでもっと日本三大鍾乳洞であることを取材してもらい宣伝してもらうことなどで情報発信が必要だと書かれていた。また、のいち動物園や、アンパンマンミュージアムなどの施設と連携することや、冒険コースに年齢制限があることから、子供を楽しませることができるコースがほしいという子連れならではの意見もあった。ほかには季節ごとの変化があればまた来たいと思う、リピーターをおおわせる回答や、周辺施設や、トイレなどの古さが気になるため改築をしてほしいという意見も多数あった。

学生の意見と合わせてみても、やはり1番に上がるのは、龍河洞の広報力の弱さであった。一般の意見の中では、ほかの3大鍾乳洞と比べると宣伝が少ない気がするなど、認知度の低さが大きく影響しているのではないかと考えた。また、一般の人たちが多く回答していた、トイレや周辺施設の古さはリピーターを遠ざけるポイントになると考えられるので、改築の余地があると考えられた。

5. 4 アンケートまとめと提案

5章で得た結果から、まず交通機関が昔よりも栄えたにもかかわらず来ている人数は減少傾向にあるのは、県外からの観光客が龍河洞へ行くためのバスを知らないという根本的な状況が大きく影響しているように考えられる。実際にアンケートの中で、ツアーバスや、車以外で移動することができる方法があるといいという意見があった。また、10時からのコースに参加しようと思ってバスの時刻表を見ると、8時半着しかないということから、バスの本数を増やしたりすることも必要かと考える。

また、もっとも来ている理由として多かったのが、家族や親戚と来たという意見だったことから、子連れが多いのではないかと見込み、アンパンマンミュージアムなどとの

連携を図ることができれば尚よいのではないかと考える。

ほかにも、今まで行ったことがない学生の龍河洞への印象が行ったことがある人たちに比べ、非常にネガティブで印象を良くすることが必要であると感じた。そこで一番PRすべきだと感じたのは、学生でも、一般の方でも非常に高い点数を示していた龍河洞の洞窟内部についてだ。洞窟の内部状況をもっと宣伝して行ったことがない人たちに、「楽しそう」という印象をもってもらうための努力をしていくべきである。ポジティブな印象を持ってもらうためには、行ったことがない人たちを呼び込む努力をするべきであると考え。行ったことがある人たちの多くは龍河洞に対して内部に関しては高い評価を得ている。この評価の高い内部を今までよりも公表しSNSなどにあげることで、若者の関心を引き出すことはできないかと考える。

6. インタビュー

この結果から実際に、学生、一般に行った5章のアンケートを、そのアンケートの内容を考えるためにご協力いただいた香美市役所、そして、一般用のアンケートをする場を与えていただいた龍河洞に、アンケート結果からの考えを聞くためにインタビューを行った。香美市役所産業振興課は12月18日にインタビューを実施し、龍河洞には1月25日に出向いた。

香美市役所の産業振興課では、植村崇史氏にアンケートの結果を話し、意見を伺い、龍河洞の活性化についての話をする中で、興味のそそられる話が3つほどあった。1つは、龍河洞とアンパンマンミュージアムという施設の連携をしてみてはどうかということについてである。その件については、以前に同じようなことを計画されたことがあったらしく、その時に何かしら問題があり中止されたということだった。この件については後半の龍河洞保存会とのインタビューの際に詳細を記す。次に、出前授業を龍河洞の保存会の方が行ってみたいかどうかということについてである。龍河洞についてのことを学ぶためにはそれを教えていく人が必要ではないかということからこの提案をしたのだが、今龍河洞の保存会の組織の人達の中には、出前授業をできるような人がいないらしい。しかし、行うことができれば龍河洞への関心意欲は今までよりも上がるかも

しれないため、検討していきたいと、前向きな考えを述べていた。また、3つ目に龍河洞の中に写真撮影をすることができる広い場所があればいいのではないかとという提案をした。広報力を強くするためには、ただ龍河洞の関係者が努力するだけではいけない。一つの方法として SNS やブログなどに龍河洞の写真を挙げてもらうことがいいのではないかと考えた。植村さん曰く、中は狭く、洞窟内は後ろから次々と人が来ているという感じであるらしく、立ち止まって写真を撮りづらいということであった。龍河洞の内部で、どこか広い場所に写真撮影スポット的な場所を設置して写真を撮ることができる場所を作ることができれば、写真を撮って SNS などに UP する観光客も増えるのではないかと、提案に対して前向きに話し合うことができた。

次に、1月25日月曜日14時から、龍河洞保存会の岡崎淳一会長へのインタビューについて記す。まず一つ目、香美市役所産業振興課の植村氏の話の中で提案として出した、出前授業は行わないのかという話に関して、岡崎会長の話を知ると、鏡野中学校の1年生に出前授業を行ったことがあるらしく、その際に「龍河洞へ行ったことがある人」と質問をした際に半分ほどしか上がらなかったらしく、それではまずいと思い、去年おととしと香美市の小学3年生を、教育委員会を通して招待したということだった。目標としては、香美市在住で龍河洞に行ったことがない人を0にしていくことを挙げており、その点に関して地域への貢献を行っていた。しかし、出前授業に関しては私たちの予測していた理科や社会のような勉学と関連付ける授業ではなく、龍河洞の活動について話す、説明中心の講義であった。質問の中でそういう学習との関連付けをしての授業は行わないのかという問いに関しては、龍河洞保存会の中にできる人があまりいないらしく、なかなか難しいという結論に至った。この話の最中、龍河洞を経営するのに手いっぱいなところが大きくあり、詳しく内部環境について触れることができないという人手不足が感じられ、人員不足を解消するほかに方法はないと感じた。

次に、龍河洞とアンパンマンミュージアムの連携の話に関しては、まず、二つの料金の違いから行うことが難しい、そしてもう一つ、アンパンマンミュージアムの狙う客層が

小学生以下、龍河洞は小学生以上を対象としていることが連携をすることができない理由であった。ほかの場所との連携も過去に考えていたのだが、その理由でお流れになってしまったらしく、連携をすることは難しいと判断した。

しかし、イベントを行う際(7月の龍河洞祭りなど)は、高知県南国市にある西島園芸団地の商品を龍河洞の商店街のあたりで売っているなど、本格的な、料金が関係した連携はしていないが、交流はあるということが判明した。

実際に質問の最中、岡崎会長は龍河洞へ人が来ない理由として重く捉えていることは、店街のさびれた風景だということで、今年のテーマは商店街の活性化、美化に力を入れることだと言っていた。また、近年増え続けている外国人観光客の増加を見込み、外国人の誘致にも力を入れていくらしい。

今後日本の若い人達を呼び込むための広報についてどう考えているのかと話をきくと、「今の若い人たちは自然美に興味を持っておらず、造られたモノへの美しさに心を惹かれている(例:TDLなど)から、関心を引き出すことは難しい。」という意見を話していた。時代の流れにはかなわないということで、国内へのアピールをしていくことに関しては消極的であり、この消極的な姿勢がこれまで有効な打開策を展開できなかった理由ではないかと考える。

香美市役所産業振興課の植村氏、龍河洞保存会会長の岡崎氏から話を伺ったことで、どちらも活性化には力を入れていきたいものの、なかなか行動をしようにも難しく、実際行動を起こすにも経済力の低さ、失敗を恐れる非積極性から現在の状況から抜け出すことができず、八方塞がりになっているのではないかと感じた。

7. 今後の課題

今後の課題として、一つはまず、龍河洞を運営している本人たちも理解をしている、商店街の美化、活性化を重きにおき、龍河洞の洞窟外でも人を呼び込めるようになる状態を作ることが必須になるであろう。

そしてもう一つの課題として、龍河洞の内側を調査していくべきだと考える。龍河洞の多くの問題の中でいくつかあげるとすれば、まず、若い人達を呼ぶことへの諦めた姿勢、人材不足の2つの要因が挙がる。まず、諦めの姿勢

については、インタビューの際に、若い人たちが自然美に興味を持たない＝龍河洞に興味を持たない、という考えがあることから、すでに諦めているように感じられた。香美市の小学3年生を招待することで、香美市の子供が龍河洞について触れたことがないという子供をなくすように努力をしている。だが、香美市以外の若い人たち（10～20代）に対してのPRが足りていないと考える。それが諦めの姿勢の現れではないかと考える。しかし実際は、アンケートの結果から考察する限り、龍河洞へ行ったことのある学生の多くは洞窟内部への満足度が高い。その結果を見ると、まだ若い人たちへのPRを諦める必要はないのではないかと考える。次に、人材不足についてであるが、現在龍河洞運営の方の高齢化が進んでおり、若者がほぼいない状態である。人員の高齢化が進むにつれ、若い人たちはいなくなり、若者の斬新なアイデアは出てこない。また、そのため、外部への出前講義を行うということになっても、学術的なものと組み合わせる龍河洞を説明できるような人材がいいため、切り開けずにいることがわかる。新しい人材を取り込むといったことをしているかどうか今回の研究では定かではないものの、高齢化が進むにつれ、若者の考えをも内部に取り込むことが少ない状態である。それを原因に徐々に閉鎖的な経営になってきているように感じられた。それら2つの要点などがあるからこそ、今の龍河洞が新たな政策を行うと考える際に消極的な姿勢をせざるを得ない状況を作り出しているのではないだろうか。

それらを踏まえ、今後継続して調査していくべきは、組織の内側に切り込んでいき、より龍河洞の内部事情を知っていく調査が必要であると考え。龍河洞が消極的な姿勢をとらざるを得なくなったのはなぜなのか、また、内部を変えるべきであれば、新たな体制も考えていく必要がある。

新たな取り組みに積極的な姿勢を持つためには、龍河洞の要因、消極性の背後について明らかにしていくことが今後の課題であると考え。

参考文献

HPより抜粋

日本観光鍾乳洞協会

<http://www.syonyudo.net/>

龍河洞

<http://www.rvugadou.or.jp/about.html>

秋芳洞・秋吉台

<http://karusuto.com/>

七ツ釜鍾乳洞

http://www1.plala.or.jp/CUE/cave_nanatugama.html

龍泉洞

<http://www.iwate-rvusendo.jp/top.php>

あぶくま洞

<http://abukumado.com/>

昇竜洞

<http://www.town.china.lg.jp/modules/sangyou/index.php>

[?content_id=6](http://www.town.china.lg.jp/modules/sangyou/index.php?content_id=6)

球泉洞

<http://www.kyusendo.jp/>

日原鍾乳洞

<http://www.nippara.com/nippara/syounvuudou/syounvu>

[udou.html](http://www.nippara.com/nippara/syounvuudou/syounvu)

飛驒大鍾乳洞

<http://syonyudo.com/>

書籍より抜粋

龍河洞・物部川流域観光調査

龍河洞60年の歩み